

政策体系	基本目標名	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	施策主管課長	スポーツ立市推進課
	政策名	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり		
施策関係課	施策名	1	スポーツツーリズムの推進	村山 和之	
	都市ブランド推進課、市民活動促進課、市民生活課、産業立市推進課、農政課、農山村振興課、観光立市推進課、国体準備課				

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標				単位	H30	R1	R2	成果指標設定の考え方			
	①スポーツ大会やスポーツ合宿の主催者 ②スポーツを行う又は興味関心のある団体や個人 ③スポーツ大会の運営を支える市民	① 日本スポーツ協会の競技団体数	② 日本の人口	③ 市人口	④	団体	59	59					
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標（意図の達成度を表す指標）				区分	単位	H30	R1		R2	R3	成果指標の取得方法
	①スポーツ大会や合宿を本市で実施してもらう。 ②スポーツを目的に本市に来てもらう。 ③スポーツを目的に市外から人が集まるスポーツ大会の運営にボランティアとして参加してもらう。	① 宿泊者のあるスポーツ大会又は合宿の数	② 市外からのスポーツ大会又は合宿の参加者数	③ スポーツ大会又はスポーツ合宿に協力するボランティア数	④	⑤	件	10 36	12 48		12	15	
		目標実績	目標実績	目標実績	目標実績	人	7,000 6,577	7,500 5,506	8,000		8,500		
		目標実績	目標実績	目標実績	目標実績	人	400 356	400 162	450	450			
		目標実績	目標実績	目標実績	目標実績								

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3
スポーツツーリズムによる誘客促進	①市スポーツツーリズム協会 ②スポーツ施設 ③プロスポーツ団体、スポーツに興味関心のある人、スポーツ団体	①スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致する。 ②スポーツツーリズムを主体的に供用する。 ③市内施設での試合やイベント等により集客する。	① 誘致できたスポーツ事業(大会、イベント、合宿等)の数	目標実績	件	7	10	15	20	クリケットタウン佐野の推進	①クリケットタウン佐野創造プロジェクト ②市民 ③地域の事業者	①クリケットタウン佐野創造プロジェクトの推進により地方創生を進める。 ②クリケットに興味を持つ。 ③クリケットタウン佐野創造プロジェクトに協力する。	① クリケットタウン佐野創造プロジェクトの進捗率	目標実績	%	43.2 40.5	71.8	100.0	-
			② スポーツツーリズムを主体にしたスポーツ施設数	目標実績	箇所	2	3	3	3				②	目標実績					
			③ プロスポーツ団体と連携したツーリズム事業数	目標実績	件	1	2	2	2				③	目標実績					
スポーツを支える環境づくり	①スポーツ好きな市民	令和4年のとちぎ国体(以下「国体」)、全国障害者スポーツ大会(以下「障スポ」)も含め、スポーツ事業を支えるボランティア活動に参加してもらう。	① 市主催スポーツ大会、スポーツイベントにスタッフとして係るボランティア数	目標実績	人	2,300 2,027	2,300	2,400	2,500				①	目標実績					
			② スポーツボランティアの登録者数	目標実績	人	50 50	60	70	80	②	目標実績								
			③ 国体・障スポボランティア登録者数	目標実績	人	-	-	50	150	③	目標実績								

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和元年度施策の取組方針	施策の取組方針・成果指標達成状況
	<ul style="list-style-type: none"> 市が中心となり設立するスポーツビジネスを行う株式会社と連携することで、スポーツツーリズム事業の充実を図る。 「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトを推進し、市民や事業者などが参加することによる国際クリケット場やまちなかの賑わいづくりを進める。 スポーツボランティアの確保のための養成プログラムを実施し、スポーツ大会に協力するボランティアを育成する。 	<input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成

基本事業名	令和元年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況	基本事業名	令和元年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況
スポーツツーリズムによる誘客促進	<ul style="list-style-type: none"> 「株式会社さのスポーツキャピタル」と連携し、スポーツと市内の観光や産業の資源を掛け合わせた集客事業の実施等によりスポーツツーリズムの進展を図る。 スポーツツーリズム推進のために、新たに地域おこし協力隊を任用する。 全国から参加者のある「さのマラソン」の公認大会化に向けプレ大会を成功させ本大会の準備を進める。 令和4年(2022年)とちぎ国体(以下「国体」)、全国障害者スポーツ大会(以下「障スポ」)を遺漏なく開催するため組織体制を整え、準備を進める。 	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成 【基本事業の取組方針達成状況】 ・地域おこし協力隊及びさのスポーツキャピタルと連携し、市内関係先を営業したが、台風被害・コロナ禍等の影響もあり、下半期は活動の場が極度に減少せざるを得なくなった。 ・台風被害により、さのマラソン、大澤駅伝、県高校駅伝が中止となった。 ・国体・障スポに向け、準備委員会から実行委員会へ改組し、実施に向けた諸計画を策定、県や競技団体と必要な協議を重ねた。 【成果指標達成状況】 ・(株)スポーツキャピタル、地域おこし協力隊と連携し、新たなスポーツ大会の誘致を目指したが実現しなかった。 ・台風被害により、さのマラソン、大澤駅伝、県高校駅伝などが中止となり、スポーツツーリズムによる誘客(参加選手、大会関係者、大会観覧者等)数は大幅に減少した。	クリケットタウン佐野の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域価値創造マネージャーや佐野市クリケット協会と連携し、佐野市国際クリケット場(SICG)でのクリケット大会や集客イベントの事業実施を通して施設の利用促進とPRを進める。 地域価値創造マネージャーや佐野市クリケット協会と連携し、人々が滞留できるまちなかのクリケットの交流拠点づくりを進める。 	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成 【基本事業の取組方針達成状況】 ・プロジェクトのマスタープラン、校舎リノベーションの検討、海外展開への足がかり、国内インドコミュニティ向け大会の開催、市内向けイベントの実施などを行った。 ・国際クリケット場の利活用は、台風被害もあり、持続的な利活用促進を図る手立てが見いだせず、これまでの実績に上乗せできなかった。 ・旧伊達医院を改修し、プロジェクトのまちなか拠点として活用しようとしたが、国際クリケット場との繋がりを欠いた。 【成果指標達成状況】 ・プロジェクトを担う地域価値創造マネージャーに補助金として事業費を支出、必要な取組を建てつけながら取組んだが、KPI達成には至らなかった。
スポーツを支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 広報さの他ツイッター等のソーシャルメディアを活用してスポーツボランティアの活動内容や魅力をPRし、ボランティア登録制度への登録者の増加を図る。 スポーツボランティア育成講座やイベント参加を通し、スポーツボランティアの人材育成を図る。 	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成 【基本事業の取組方針達成状況】 ・台風被害、コロナ禍により、スポーツ大会が中止となったため、新たなボランティアの掘り起しも含め、ボランティアが活動する機会が失われた。 【成果指標達成状況】 ・大会が中止となったため、育成講座をはじめボランティアの魅力を伝える機会を設けることができなかった。		取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成	

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
	<ul style="list-style-type: none"> 国は、「スポーツツーリズム推進基本方針」において観光立国の姿を示し、インバウンド政策を進めるとともに、地方創生において雇用創出、定住化による地域活性化を支援している。 市議会において、クリケットを核にスポーツツーリズムを推進することについて、支持する意見をいただいでおり、成果を期待されている。 令和4年に開催される国体・障スポにおいて、本市は国体ではラグビー(全種別)とバレーボール(成年男子)を、障スポではバレーボール(精神障害者)を開催する。 令和元年度東日本台風と新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、さのマラソン、大澤駅伝等の中止、スポーツ施設の供用を中止する等、スポーツを実施する環境が大きく損なわれている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドのみならず国内ツーリズムの先行きが不透明の状況にある。 	市民	事業所	行政

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ビジネスに長けた地域おこし協力隊員を中心に設立した(株)さのスポーツキャピタルでは、自社HPを活用した市スポーツのPR、国体HPの制作、さのマラソン大会の事前調査等を進めたが、10月の令和元年度東日本台風の影響によりさのマラソンをはじめイベントが軒並み中止され、協力隊員の活動を含む会社の活動が激減した。 「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトでは、上半期は、日本クリケット協会と連携し国際大会や国内大会の開催を盛上げたほか、市内はもとより首都圏でクリケットのまち佐野をPRするイベントを開催したが、下半期は、台風被害とコロナ禍により取組を進めることができなかった。 スポーツボランティアの新たな発掘と育成については、メインイベントのさのマラソン、大澤駅伝の中止により、取り組むことができなかった。 施策全体では67,556千円の増、主な要因は国際クリケット場整備事業32,179千円、クリケット佐野創造プロジェクト事業33,998千円、国民体育大会開催準備事業費4,348千円の増。 	【令和2年度で解決する課題】 ・さのマラソンの開催方向性(参加対象者、実施時期、コース、距離等) ・「クリケットチャレンジ!!!」の実施、令和3年度プロジェクト実施主体(コンソーシアム)の検討、設立 【令和3年度以降に引き継がれる課題】 ①コロナ禍が継続することによるスポーツツーリズムのあり方 ②地方創生事業「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトの将来像とその実現 ③とちぎ国体や障害者スポーツ大会、新さのマラソン等のイベントや総合型地域スポーツクラブの活動等の市民スポーツを支えるボランティアの確保 【令和3年度の重点課題】 ④クリケットプロジェクトコンソーシアムの形成とプロジェクトの自走 ⑤災害、コロナ禍により2年連続中止したさのマラソン大会の再開	①今後のコロナ禍を見通しながら、インバウンドによるクリケット誘客なども含めスポーツツーリズム事業のあり方を見極めしていく。 ②地方創生事業としてプロジェクト全体を長期的に展望しながら、成果の拡大と自走継続を図る。国際クリケット場は、単に維持管理だけでなく、旧校舎の利活用も含めた施設整備から維持管理運営まで、民間の資金調達、運営及び技術能力を活用し、長期にわたり効果的、効率的な施設の運用を目指す。 ③とちぎ国体、障害者スポーツ大会、さのマラソンをはじめ、様々なスポーツの場面で活躍するスポーツボランティアの活動を制度化し、活動の輪を広げていく。特に、国体は市民参加のもと、花いっぱい運動、炬火イベント、国体ダンス普及等を実施、開催機運を醸成する。 ④国際クリケット場の維持管理運営は、日本クリケット協会に委ねる。プロジェクトの舵取りは、日本クリケット協会とコアとなる事業者を中心に形成されたコンソーシアムに委ねる。 ⑤さのマラソンは、市民団体、民間事業者等と広く連携し、ボランティアの拡充や企業協賛を積極的に募る等、新たな手法をとり入れる。マラソン大会組織委員会事務局の体制を再構築する。